

## 御礼とご挨拶～設立10年を迎えて



### 新たな時代の 地域医療貢献を目指して

公益財団法人 杉浦記念財団  
理事長 杉浦 昭子

#### 価値ある取り組みの背中を押す

おかげさまで、当財団も設立10周年を迎えることができました。これまで多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。ここにあらためて御礼を申し上げます。

設立当時を振り返りますと既に、高齢化の進展が社会的な問題として様々に取り上げられており、一方で私自身も、それまでの社業をベースにさらに地域貢献に役立ちたいという思いが強くなり、財団の設立について考えるようになっていました。これが実現すれば、各地域にある多数の店舗もそれぞれに地域の皆様の暮らしをよりよくするお役に立てるのではないかと考えました。

その思いを、国立長寿医療研究センター総長(現名誉総長)でいらっしゃった大島伸一先生に相談させていただいたところ、ご賛同をいただいた上、ありがたくも様々なご指導も賜ることができました。それが当財団の始まりです。そしてその後も順調に進み、地域の価値ある取り組みに対する褒賞・助成制度の整備や研究会の運営にも着手でき、徐々に形になっていきました。

しかし、私自身はそれまで薬局事業に関することしか経験がなく、財団活動そのものや地域医療などについては理解が薄く、その分困難もありました。ただ幸いにも多くの先生方に直接お会いし、現場を訪れ、様々なこと

を学ばせていただくことができました。全国を駆け回る日々が続きましたが、それも苦勞というよりも楽しみの方が大きかったように感じています。

#### 今年は褒賞3編、助成16件に

さて、当財団の設立以来、主事業となっている杉浦地域医療振興賞(以下「杉浦賞」)、及び杉浦地域医療振興助成(以下「杉浦助成」)も第10回となりました。今年も全国各地から、杉浦賞には17編、杉浦助成には92件の応募をいただきました。ご応募くださった皆様に、この場を借りて御礼を申し上げます。

審査委員、選考委員の先生方の厳正な選考の結果、杉浦賞に関しては3編、杉浦助成に関しては研究分野7件、活動分野9件の計16件を選定させていただきました。選外も含め優れたものが多く、審査・選考いただいた先生方には大変ご苦勞をおかけいたしました。併せて御礼申し上げます。

本報告集では、今回受賞のご紹介と第9回杉浦助成対象の成果報告も共に掲載させていただきました。今後、杉浦賞、及び杉浦助成にご応募をお考えの方々の参考となることを願っております。

次なる10年を目指して、今後とも皆様のご指導ご鞭撻をいただきながら、一つひとつ実績を積み重ねて参る所存ですので、引き続きご支援のほど、何卒よろしくお願いいたします。

### 変わらぬ理念で 地域と共にこれからも

公益財団法人 杉浦記念財団  
評議員会長 杉浦 広一



#### 多くの専門家のご支援を受けて

当財団は、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための取り組みの支援を中心に活動を展開し、本年、設立10周年を迎えることになりました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

評議員、理事、委員の先生方からは、財団運営に多大なるご指導ご鞭撻をいただき、今日のように活動を発展させることができました。大変感謝しております。

私ども夫婦は、1976年12月、医薬品・健康食品・化粧品・日用品の販売、及び処方せん調剤を目的として、愛知県西尾市に薬局を開設して以来、「一人の薬剤師として地域のために何ができるか」「目の前のたった一人のお客様のために何ができるか」を念頭に置き、「地域のかかりつけ薬局」になることを目指してスギ薬局を育てて参りました。

スギ薬局グループが創業35周年を迎えた2011年9月1日に、それまでの様々なご支援に報いるため社会貢献という形で少しでもお役に立ちたいとの思いから杉浦昭子理事長と共に「一般財団法人杉浦地域医療振興財団」を立ち上げました。そして2015年7月1日には公益認定を受け、名称を「公益財団法人杉浦記念財団」に改めました。

私は、理事長の支援をし、財団の方針を多角度から判断し決定する評議員会長として、

側面からサポートを続けて参りました。理事・評議員の皆様は、地域医療について非常に熟知されている医師や看護師、薬剤師、行政経験者など専門家を中心に、多職種の方々にバランスよくお願いすることができました。地域医療への貢献を目的とするこの財団が、他のどの財団様よりも優れた皆様に集まっていただけのもので大変感謝しております。

#### 次世代のリーダーシップに期待

杉浦昭子理事長は、設立時からこの新型コロナウイルス感染症が流行するまで、自ら全国を飛び回る日々が続いていました。社交的な華やかなお付き合いではなく、地域医療に貢献する取り組みを現場で頑張っている団体・個人を表彰するために、全国各地へ足を運び、寝食を忘れたかのように財団活動に尽力してきました。月300時間以上も活動していた時期もあり、体調は大丈夫なのか気遣ったこともありましたが、これも地域貢献であり、その輝いている姿を見てうれしく感じることもありました。世の中に公益財団は数多くありますが、理事長自身がそこまで活動する財団は、ないのではないかと思います。

今後は、杉浦伸哉副理事長が若い力を存分に発揮し、新たな活動が展開されることにも期待をしています。

これまで同様のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。